

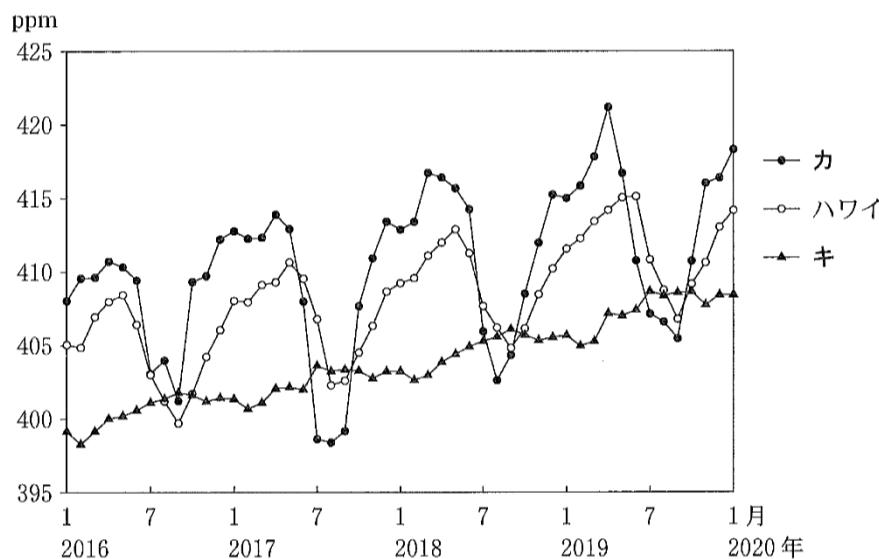


大気中の二酸化炭素濃度の推移

共通テスト

第3問 問2

問2 次の図3は、いくつかの観測地点における大気中の二酸化炭素濃度の推移を示したものであり、凡例にカとキは、アラスカとニュージーランドのいずれかである。ニュージーランドに該当する凡例と、図3に関することがらについて述べた文章中の空欄×に当てはまる語句との組合せとして最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 10



推定値を含む。スクリップス海洋研究所の資料により作成。

図3

大気中の二酸化炭素濃度は、経年変化をみると、いずれの地点においても季節変動を示しながらも増加傾向を示している。緯度帯ごとの濃度の季節変動は、図3中のいずれの地点においても共通し、主に陸域の(×)の活動による。

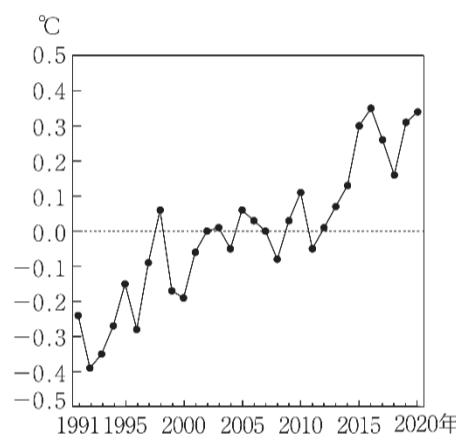
	①	②	③	④
ニュージーランド	カ	カ	キ	キ
×	植物	人間	植物	人間

河合塾

共通テスト本番突破テスト
地理総合、地理探究 第1問 問2

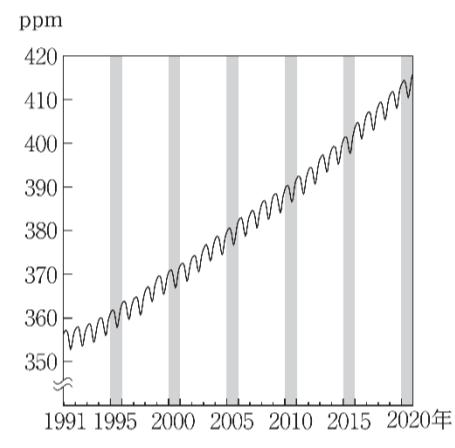
問2 次の図2は、1991年から2020年までの世界の年平均気温偏差*を示したものであり、図3は、1991年1月から2020年12月までの大気中における二酸化炭素の世界平均濃度の月別の値の推移を示したものである。これらの図に関して述べた後のカとキの文の正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 2

*各年の平均気温の基準値からの偏差を示す。基準値は1991～2020年の30年の平均値。



気象庁の資料により作成。

図2



World Data Centre for Greenhouse Gases の資料により作成。

図3

カ 世界の平均気温は、二酸化炭素濃度以外の要因により低下することもあるが、長期的にみると、二酸化炭素濃度の上昇と関係している。

キ 世界の二酸化炭素濃度は、北半球の冬季に上昇し、夏季に減少するという小刻みな変動を繰り返しながら、上昇している。

	①	②	③	④
カ	正	正	誤	誤
キ	正	誤	正	誤

大気中の二酸化炭素濃度の推移の図から観測地点と二酸化炭素濃度の季節変動の要因を判定する問題。共通テストでは、2016年度から2020年度のアラスカ、ハワイ、ニュージーランドの統計を扱って「ニュージーランド」を問い合わせ、緯度帯ごとの二酸化炭素濃度の季節変動の要因が「植物」の活動によるものであることが問われた。直前講習「共通テスト本番突破テスト 地理総合、地理探究」では、1991年から2020年の世界の二酸化炭素濃度の推移の統計を扱って、二酸化炭素濃度の上昇の要因と変動の読み取りを問うている。北半球では、植物の光合成が増える夏季に二酸化炭素濃度が低下することに着目することで解答できる点において、共通している。